

《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの患者発生数の増加は5週連続で続いており、11月下旬か又は12月初旬頃に全国的な流行が開始すると予想される』

2018年11月20日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン(2018/2019年シーズン)の薬局サーベイランスコメントを開始します。
薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>)からの2018年第46週(11月12日~18日)のインフルエンザの1週間当たりの推定患者数は13,144であり、第42週以降5週連続して増加が続いています。前週(第45週:11月5日~11日)の推定患者数(12,161)よりも大幅な増加ではありませんが、全国的な流行開始の基準である「週当たり推定患者数=30,000/week」に近付きつつあり、現状のまま推移すると11月下旬かまたは12月初旬頃には基準値を超えて、流行が開始となる可能性が高いと思われます(図1)。休日明けの第47週の月曜日(11月19日)の1日当たりの推定患者数は3,794と今シーズンの最多を更新しています。

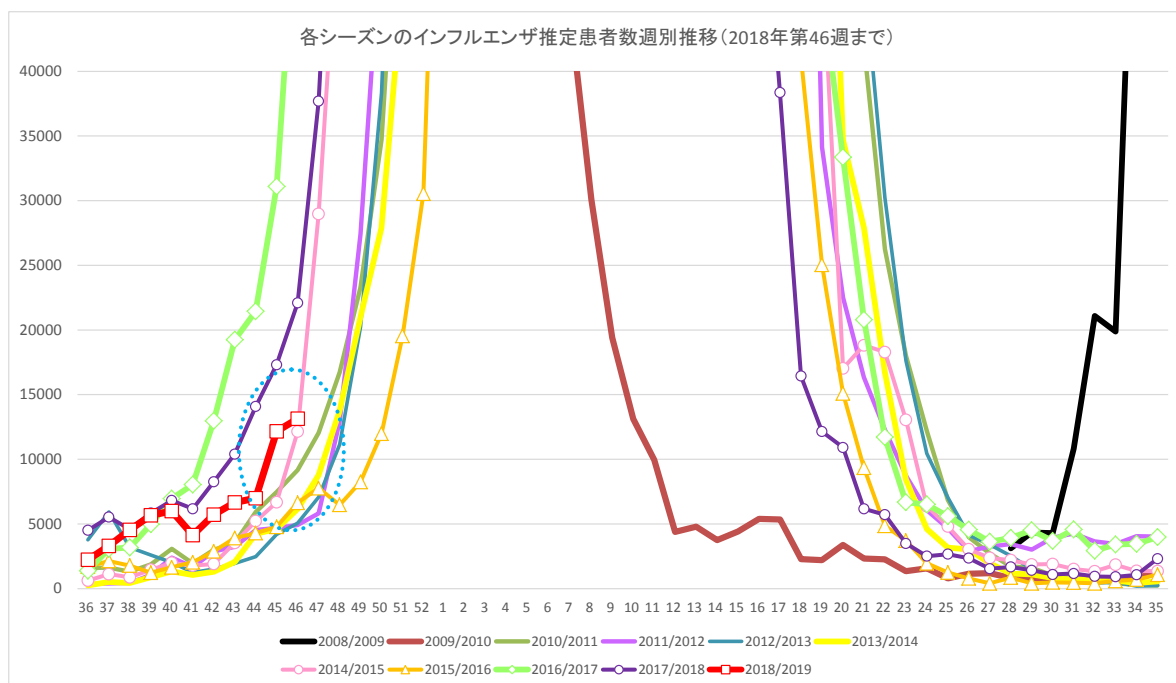


図1. 過去10シーズンと今シーズン(2018/2019年シーズン)の第36~第46週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

各都道府県別の第45週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると三重県、福井県、熊本県、島根県、和歌山県、北海道の順となっていて、まだ特定の地方に広範囲にインフルエンザの流行が広がってきている印象はありません。

2018年第36週から第46週までの累積の推定患者数は70,578であり、年齢群別では5～9歳（18.3%）、30～39歳（12.9%）、40～49歳（12.5%）、0～4歳12.2%、10～14歳（10.7%）の順となっていて、まだ本格的な流行時期程には小児の罹患割合は高くはありません（図2）。

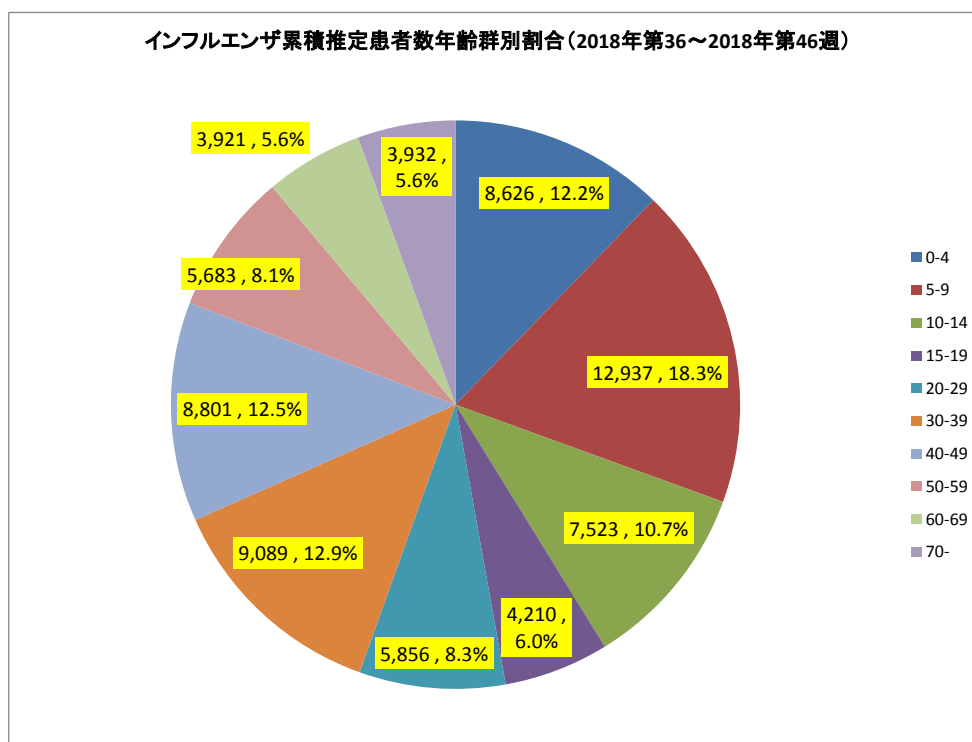


図2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2018年第36～2018年第46週、累積推定患者数= 70,578）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（135検体解析）は、A/H1pdmが73.3%と多く、次いでA/H3（A香港）亜型23.0%、B型3.7%の順となっています。

インフルエンザの患者発生数は増加が続いており、全国的な流行開始の時期は近付きつつあると考えられます。今後ともインフルエンザの患者発生の変向については注意が必要です。